

1. 全体概要

2-1 予算

2015年度のSACLAに関する予算については、試験・調整運転および供用運転のための予算52.4億円が理化学研究所に交付された。またSPring-8およびSACLAの利用者選定および利用者支援のための予算が公益財団法人高輝度光科学研究センターに13.8億円交付された。

2-2 組織

理化学研究所は設置者として、公益財団法人高輝度光科学研究センターは登録施設利用促進機関としての役割分担の下、SACLAは運営された。

2-3 運転状況

2015年度は、合計21ユニットの運転を実施し、総運転時間は6,483時間であった。

2-4 共用の状況

2015A期においては、申請課題66課題に対し33課題が、また、2015B期においては申請63課題のうち35課題がそれぞれ選定され、利用研究が行われた。

3. SACLAの現状と高度化

SACLAは、2015年度も安定的に利用運転が実施された(3-1)。並行して、ビームライン・実験ステーション・関連システムの開発と高度化が行われた。さらに、SACLAで本格的な産業利用を推進するための調査研究として「SACLA産学連携プログラム」が実施された(3-2)。

4. 国際協力

アメリカ、ドイツ、スイス、韓国、オランダの5ヶ国と締結しており、加速器科学やXFEL利用技術の開拓・開発を推し進めている。

5. 研究会・国際会議等

SACLAやLCLSでの最新の研究成果を共有し議論するため、第2回SACLA構造生物学ワークショップを開催したほか、放射光の応用や検出器の将来性に関する議論を行うため、IFDEPS(International Forum on Detectors for Photon Science)を開催した。

6. 広報活動

多数の見学や取材に対応し、さらに、施設公開やシンポジウムの開催等を通して、SACLAの広報・普及活動に努めた。

7. 委員会活動

2015年度はSACLAにおける委員会活動として、選定委員会をはじめとする各種委員会を設置、開催した。利用者選定業務を行う「SACLA選定委員会」は、2015年8月および2016年1月の計2回開催された。